

みんなで考えよう！障害者自立支援機器 シーズンズマッチング交流会2019 ～作る人と使う人の交流会～ 2020.1.14

子どもたちの笑顔のための個別支援から商品化

北九州市立総合療育センター 地域支援室 リハビリ工学技士 中村詩子

2

北九州市立総合療育センター 概要

外来 入院	診療科	小児科 内科 精神科 児童精神科 リハビリテーション科 整形外科 眼科 耳鼻咽喉科 泌尿器科 婦人科 歯科
入所	定員数	障害児入所支援（医療型障害児入所施設：重症心身障害） 障害児サービス（地域介護） 障害児サービス（施設入所）
通所	ここに通所 ナイスデイ	障害児通所支援（福祉型児童発達支援センター） 障害児通所支援（児童発達支援） 障害児サービス（生活介護）

地域支援室 ・ 相談支援事業所あだち

3

北九州市立総合療育センターのリハビリ工房

福祉用具や住環境、生活全般を
”より快適に” ”より楽しく”するため
工学 + デザイン の技術で支援します

4

北九州市立総合療育センターのリハビリ工房

5

チェックリスト15

☐ 身体的配慮（身体的心地よさと健康への配慮）	☐ +α
☐ 嗜好性（好んで使うか）	☐ より良いものがないか？
☐ 安全性（本人と介助者が安全に使えるか）	☐ つくれないか？
☐ 耐久性（長く使えるか）	
☐ 清潔性（清潔が保てるか・外観に清潔感があるか）	
☐ 色、形、素材（見た目と肌触りの良さ）	
☐ 使用性（だれでも使えること）	
☐ 公平性（どこでも手に入れ易いか）	
☐ 継続性（継続して使えるか、製作する場合は作り方を記録）	
☐ 経済性（コストパフォーマンスは適当か）	
☐ 表示性（使用手順や注意点がすぐにわかるか）	
☐ アフターケア（修理が出来るか・使えなくなったらどうするか）	

一部改定 出典：中川聡 ユニバーサルデザインの教科書 日経デザイン2005
中村詩子 小児看護「重症心身障害児の生活のシリーズ」2013

6

個別支援・研究開発 プロセス

個別支援

- 相談
- ニーズの分析と確認
- 市場調査と選定
- 試用評価
- 試作製作

↓ 類似した相談が多い場合、研究開発へ

研究開発

【商品化】
【センター内キット化】 の見極め
【個別支援】

7

「個別支援」「研究開発」の見極めイメージ図

ニーズ ↑

「研究開発」

センター内キット化 商品化

「個別支援」

福祉用具の価格 →

ニーズ：多 価格：安 ※商品化が困難

ニーズ：多 価格：高

ニーズ：少 ※個別性が高

8

事例

基本仕様を決め、希望者が手作りしやすいように用意したもの など

▶図面と材料を準備し、製作指導を実施。
▶希望者(家族や担当者)が主に製作。

センター内キット化 商品化

臨床現場のニーズを元に、産学官などと連携し、研究・商品化を行う。

個別支援

例

- 市販品や従来のオーダーでは合わない
- 姿勢保持の相談（圧測定含む）
- 住環境づくりの相談
- 最新のものを試したい
- アイデアをカタチにしたい など

9